

栄光ゼミナール賞
(高校部門)

愛知教育大学附属高等学校 1年

たかはし
高橋 あず
愛瑞

いつか一緒に働きましょう。

中学校二年生の時の担任の先生

卒業式が近づくと、互いの卒業アルバムにメッセージを書きあう。私はどうしても書いてほしい先生のところへ卒業アルバムをもつていった。私の番が来た時、先生は「お前、教師になるんだよな？」と言うと、もっていた細いペンを太いペンにもちかえ、大きく「いつか一緒に働きましょう。」と書いた。そして、「学校が遠くて通うのは大変かもしれない。でも途中で諦めず夢を追い続ける。教師になったお前に会えるのを楽しみにしてる。」と言った。嬉しくて涙が止まらなかった。

高校生になり3カ月近くが経った。辛くて挫けそうな時もあるが、いつか教師になり先生と働くためにこれからも夢を追い続ける。

受賞にあたって

どうしてもこの先生に書いてもらいたかった理由は、2年の担任の時は考え方が合わないと思うときもありましたが、3年で普通の教科の先生になってから、あれも自分のためだったと気が付いたからです。そもそも教師になりたいと思ったのは中学で入ったソフトボール部の顧問の先生にアコが来てです。この先生は言うことは強く厳しいけれど、常に私たちのことを考えてくれていることが伝わってきました。学校の先生はいろいろな生徒と接するので、どうしてもひとまとめにして見がちになると思いますが、私は一人ひとりの生徒たちときちんと向かい合える先生になりたいです。